

令和6年度 生徒アンケートの結果について

1 回答した生徒について

- ・1学年の生徒 283名
 - ・2学年の生徒 211名
- 合計 494名

2 質問内容について

グローバル教育に関するアンケート 12 間を令和 7 年 3 月に実施した。質問内容については次の通りである。

- (1) グローバル教育研究推進校として実施した様々な教育活動をおして、グローバル人材やグローバル教育について考える機会が増えたか。
 - ・英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置
 - ・英語の少人数教育
 - ・校内英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト
 - ・韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの姉妹校等交流
 - ・グローバル講演会（ラトガース大学の先生による講演会）
 - ・グローバル講演会（武蔵野大学の先生による講演会）
 - ・グローバル講演会（オーストリア大使による講演会）
 - ・グローバル講演会（G i F T の方による講演会）
 - ・グローバル出張授業（アメリカ国務省職員）
 - ・実用英語技能検定の 1 次試験会場
 - ・G T E C の受検
 - ・大学の外国人留学生との交流
- (2) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか。
 - (3) 入学時にタブレット端末をどのように準備したか
 - (4) タブレット端末の機種は何を使用しているか。
 - (5) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか。
 - (6) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まると思うか。
 - (7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができると思うか。
 - (8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業で、印象に残る活動について答える。【任意回答】
 - (9) 本校では「総合的な探究の時間」において国際理解研究をテーマに取組んでいる。

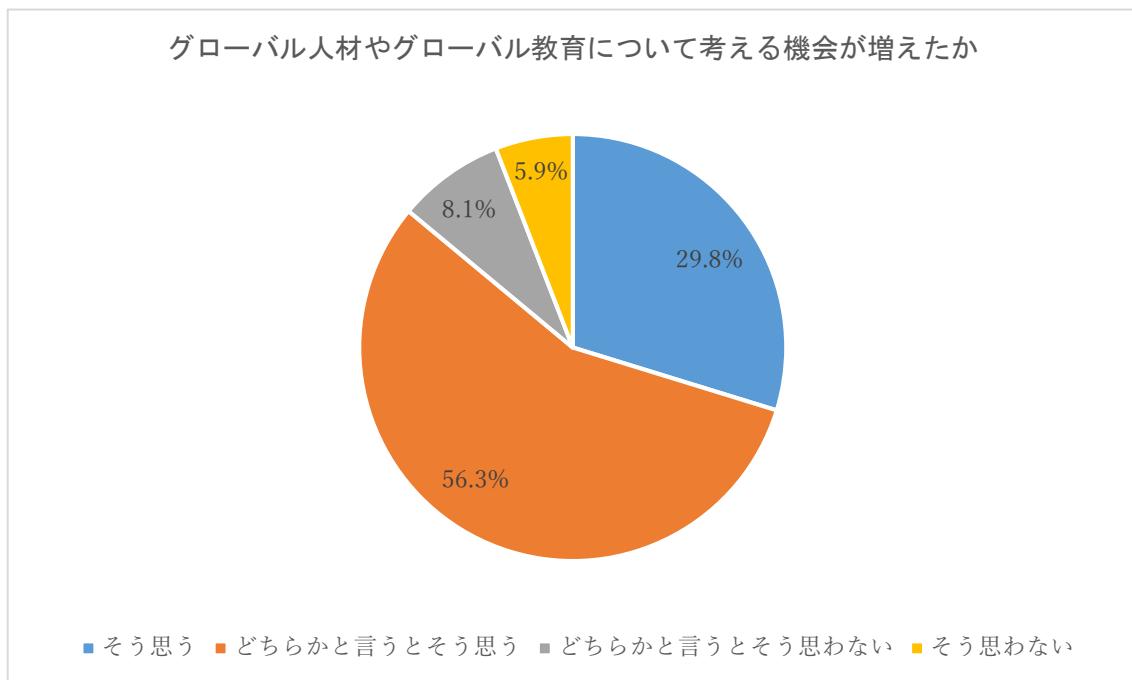
この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。

(11) 特に興味をもつようになった国際社会の諸問題について答えてください。

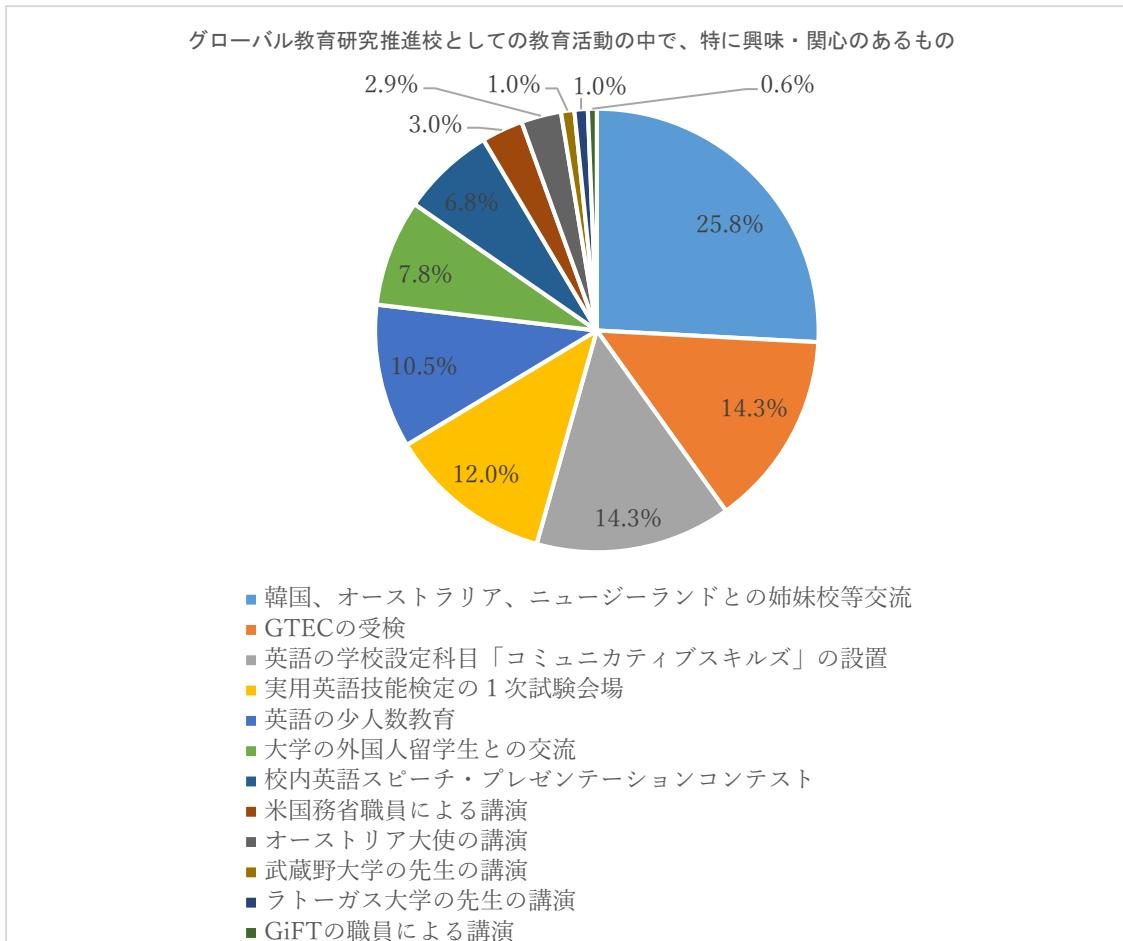
【任意回答】

3 回答結果について

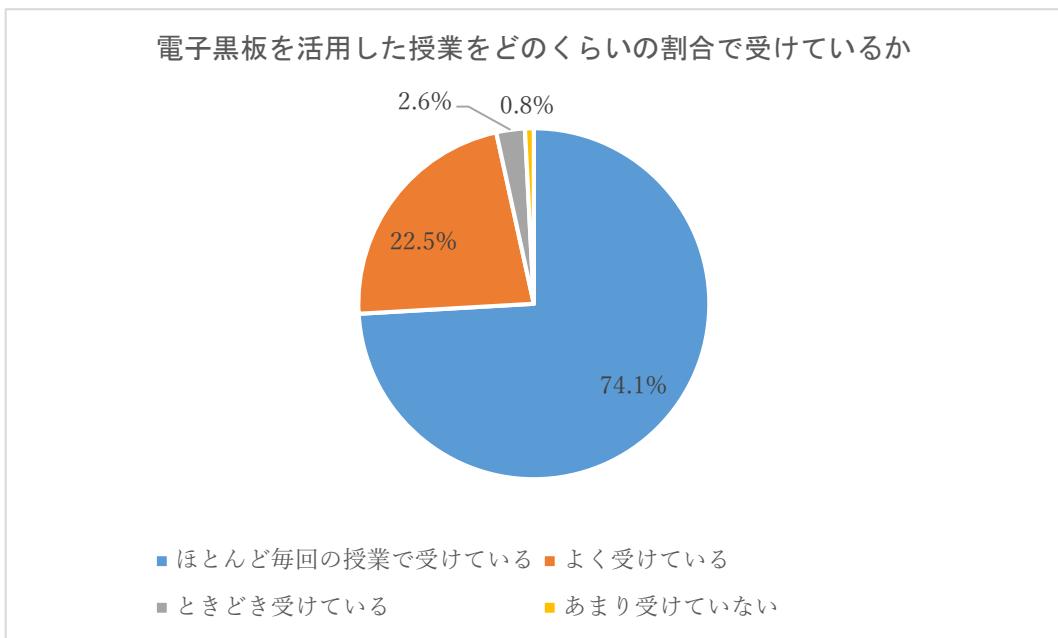
(1) グローバル教育研究推進校として実施した様々な教育活動をとおして、グローバル人材やグローバル教育について考える機会が増えたか。



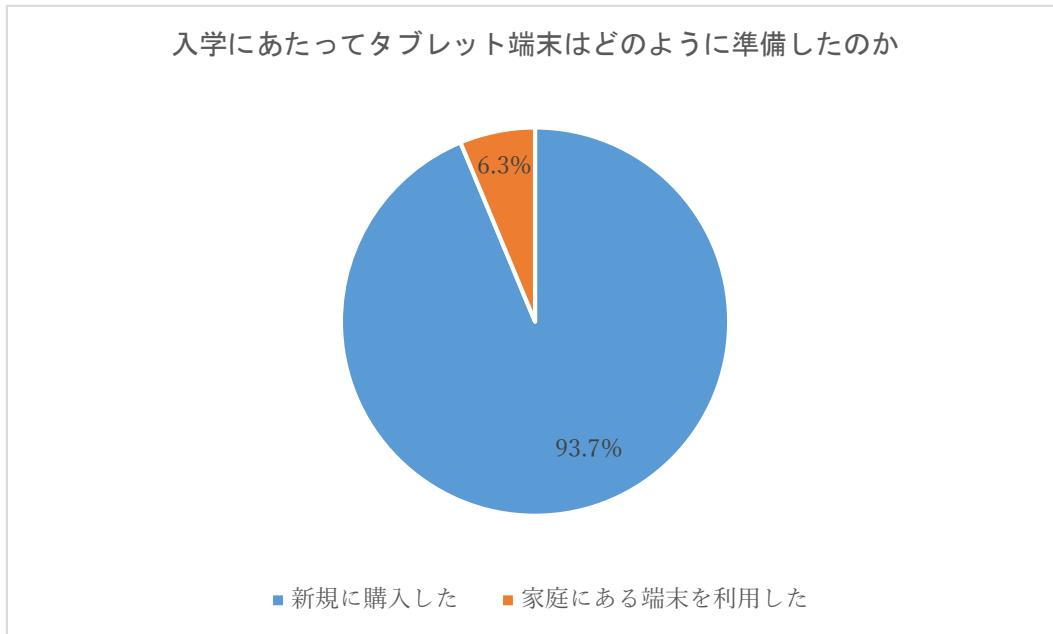
(2) グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるものを2つ選んでください。



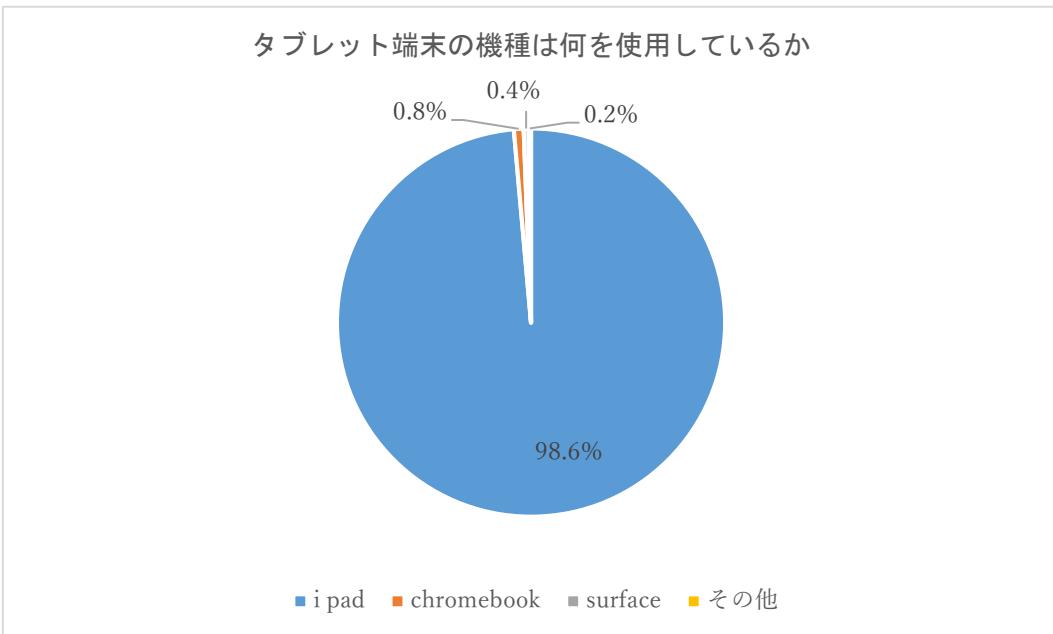
(3) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか。



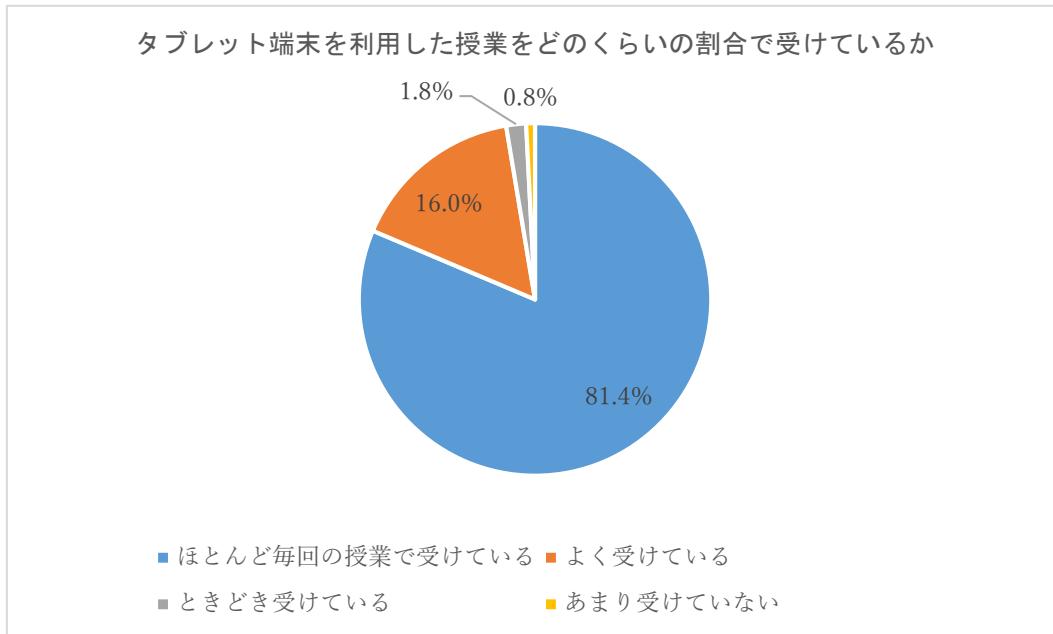
(4) 入学時にタブレット端末をどのように準備したか。



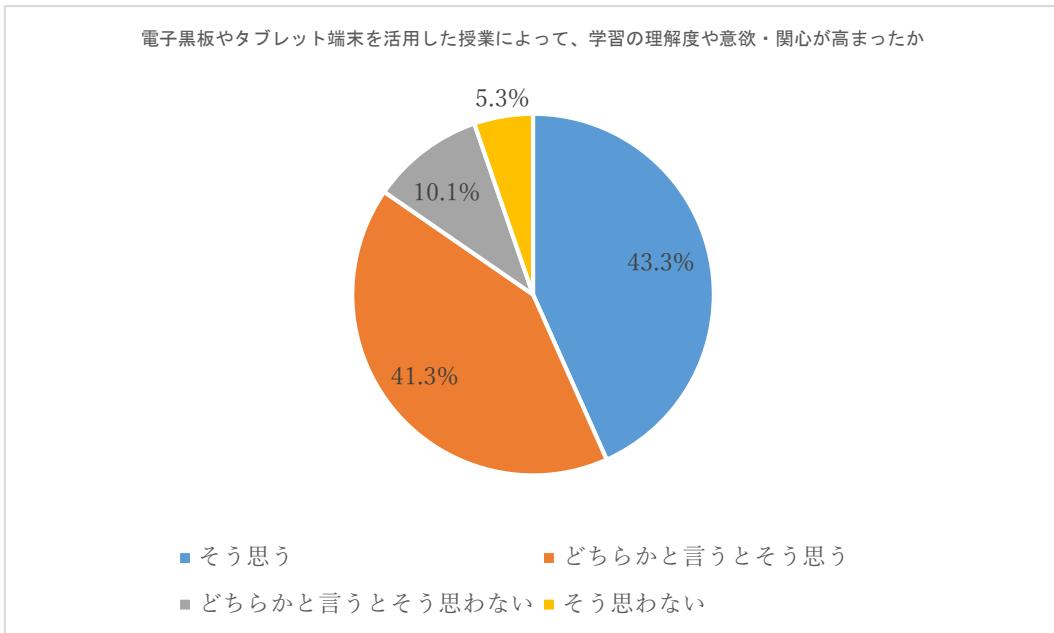
(5) タブレット端末の機種は何を使用しているか。



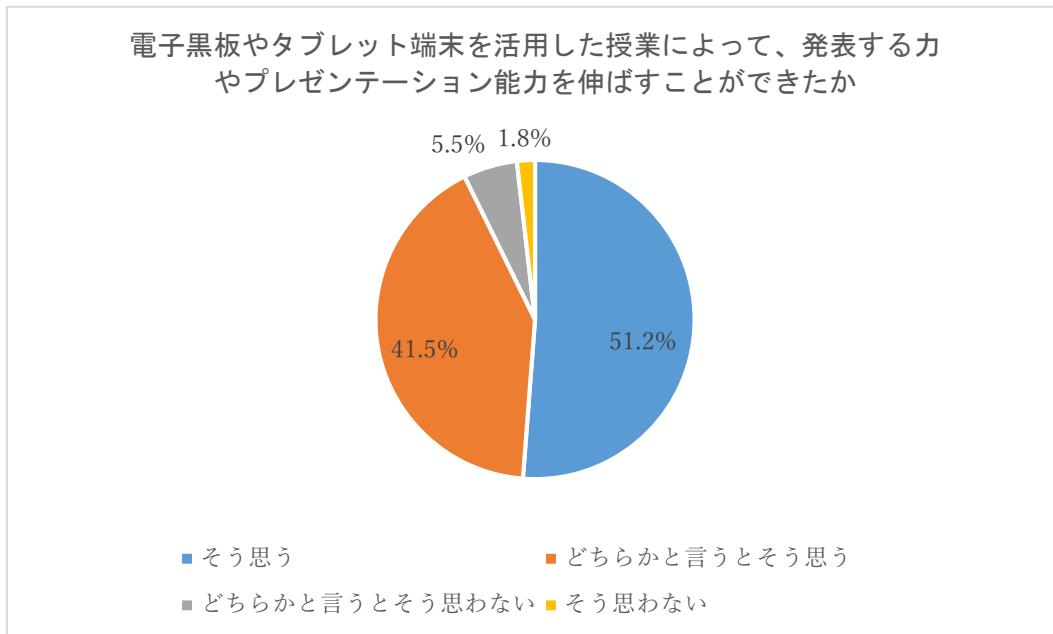
(6) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか。



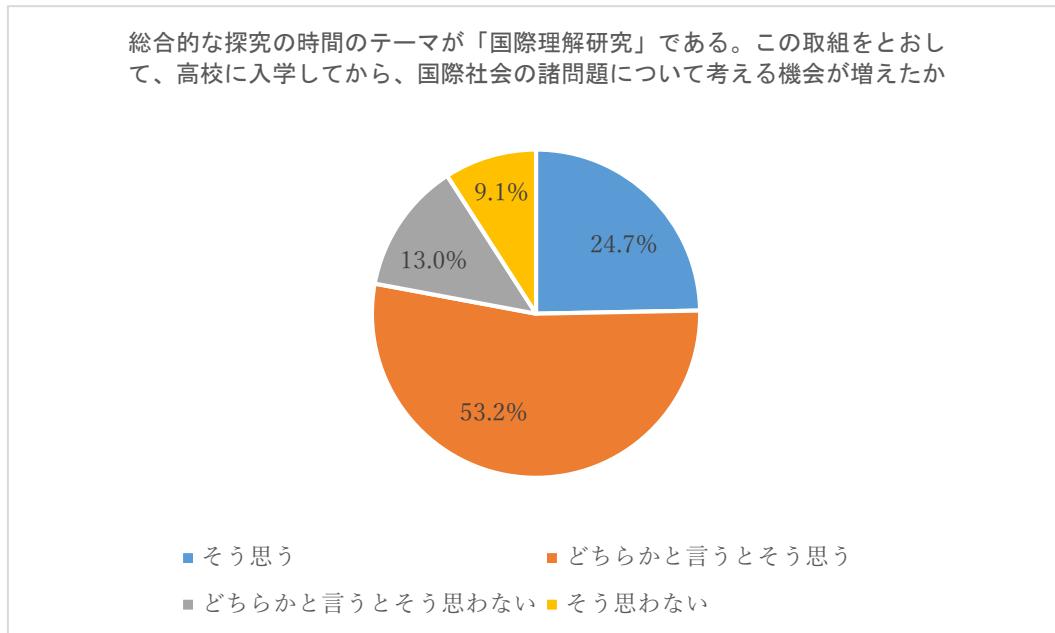
(7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まると思うか。



(8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができると思うか。



(10) 本校では「総合的な探究の時間」において国際理解研究をテーマに取組んでいる。この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。



4 結果の分析について

肯定的な意見と否定的な意見の回答割合を比較してみると、次の通りになる。

(令和4年度・令和5年度の回答割合も掲載した)

項目	年度	肯定的 (%)	否定的 (%)
(1) グローバル人材やグローバル教育について考える機会が増えたか。	令和4年度	88.1%	11.9%
	令和5年度	84.9%	15.1%
	令和6年度	86.0%	14.0%
(3) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか。	令和4年度	91.9%	8.1%
	令和5年度	94.5%	5.5%
	令和6年度	96.6%	3.4%
(6) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか。	令和4年度	90.4%	9.6%
	令和5年度	92.7%	7.3%
	令和6年度	97.4%	2.6%
(7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まったか。	令和4年度	90.7%	9.3%
	令和5年度	85.7%	14.3%
	令和6年度	84.6%	15.4%
(8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができたか。	令和4年度	93.3%	6.7%
	令和5年度	93.4%	6.6%
	令和6年度	92.7%	7.3%
(10) 「総合的な探究の時間」のテーマが「国際理解研究」である。この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。	令和4年度	88.9%	11.1%
	令和5年度	82.4%	17.6%
	令和6年度	77.9%	22.1%

(2) グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるもの
【2つ選択する】

	割合 (%)		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの姉妹校等交流	37.4%	58.0%	51.7%
G T E Cの受検	54.1%	43.4%	28.5%
実用英語技能検定の1次試験会場			24.0%
英語の学校設定科目「コミュニケーションズ」の設置	34.1%	39.9%	28.5%
英語の少人数教育			21.0%
大学の外国人留学生との交流			15.6%
校内英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト	22.2%	20.0%	13.6%
アメリカ国務省職員による出張授業	10.7%	13.3%	6.1%
オーストリア大使による講演会			5.8%
武藏野大学の先生による講演会			1.9%
ラトガス大学の先生による講演会			1.9%
G i F Tの方による講演会			1.3%
予備校の協力によるネイティブ講師による英検2次対策講座	23.0%	25.4%	
日本赤十字社をはじめとする外部機関との連携	18.5%		

※令和6年度、「予備校の協力によるネイティブ講師による英検2次対策講座」を実施しなかったため、選択肢を設けなかった。

※「日本赤十字社をはじめとする外部機関との連携」は令和4年度のみ選択肢を設けた。

(3) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業で、印象に残る活動について答える。

※回答は任意

※回答総数は 200 名で、回答数が 10 名以上のものを表示する。

- ・プレゼンテーションの作成・発表など (37)
- ・スライドの作成・発表 (32)
- ・ロイロなどを使った意見交換・課題提出など (20)
- ・コミュニケーションスキルズの発表など (14)
- ・総合的な探究時間での活動 (14)

(4) 「総合的な探究の時間」活動を通じて、特に興味を持つようになった国際社会の諸問題について答える。

※回答は任意

※回答総数は 144 名で、回答数が 4 名以上のものを表示する。

- ・環境問題・海洋汚染 (22)
- ・貧困 (14)
- ・戦争 (12)
- ・地球温暖化 (11)
- ・紛争（民族紛争・地域紛争など） (9)
- ・S D G s (7)
- ・ジェンダー平等 (6)
- ・食料問題 (5)
- ・差別問題 (4)
- ・人種差別 (4)
- ・多様性（L G B T Q を含む） (4)

「グローバル人材やグローバル教育について考える機会が増えたか」については、肯定的な回答が概ね 85%以上を維持し、海外の姉妹校等の交流や校内英語スピーチ・プレゼンテーションコンテストなどを通じて、生徒もグローバル人材やグローバル教育を意識する機会が多かったものと考える。

「電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか」と「タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか」の二つの問いは、3年間で肯定的な回答が増えており、授業でのすべての授業での活用が定着していることがわかる。他方で、「電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まったか」や「電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができたか」の二つの問いは、肯定的な回答が3年間でほとんど変わらないか、少し減少しており、令和7年度以降は、電子黒板やタブレット端末の有効的な活用ができるような工夫や方法を考えていく必要がある。

「総合的な探究の時間」のテーマが「国際理解教育」である。「この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。」は、肯定的な回答が年々減少している。「総合的な探究の時間」で「SDGs」を取り上げているが、これが生徒にとってグローバル社会と結びついていない実感があるのではないか、と考える。令和7年度以降、設問の設定を検討する必要があると考える。

次に、「グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるもの」の回答項目を細分化したこともあり、令和4年度・令和5年度の回答と一致して比較できるわけではないが、「韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの姉妹校等交流」を回答した生徒の割合が令和6年度も 50%以上となっており、海外の高校生徒の交流に興味がある生徒が多いことが分かる。しかし、実際に参加する生徒が多いわけではなく、興味を具体的な参加に結び付けることが必要であると考える。

「GTECの受検」と「実用英語技能検定の1次試験会場」と回答した生徒が 50%を超えるが、「実用英語技能検定試験」の受験者数の増加に必ずしも結び付いていないと考える。これも姉妹校等交流と同様に興味・関心を行動に変えるための方策、例えば、希望者対象の対策講座の実施や進路指導の中での英語検定資格の説明を行うなども検討することが必要がある。

「校内英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト」と回答した生徒が、令和5年度の回答と比べて 6.4 ポイント減少した。回答項目が増えたことも減少につながったと考えられるが、英語を使うことに積極的でない生徒も一定数存在し、このような生徒が、他の回答項目に移ったとも考えらえる。

「大学の外国人留学生との交流」が 15.6%、「グローバルにかかる出張授業と講演会」5項目を合計すると 17.1%あり、どちらの項目も興味・関心のある生徒があり、令和7年度以降も様々な機会をとらえて、実施すべきであると考える。